

ビジュアル系
子ども・家族の
理解と支援

1. 人の間



「人間関係」や「性格」のせいで人付き合いが苦手という話をよく耳にします。

うまくいかないのは互いの間（距離感）が合っていないから、そう考えてみたらどうでしょう。たとえば・・

生活空間における人の距離感

(家庭・学校・社会)

群れている
方が安心

個別が安心
孤独がマシ



ひとと適度に
かかわっていたい

人を巻き込んで
存在感を得たい

孤独や孤立
に耐えられない

人はわからない
集団は煩わしい

そっとして
おいてほしい

©Kobun Shunbun

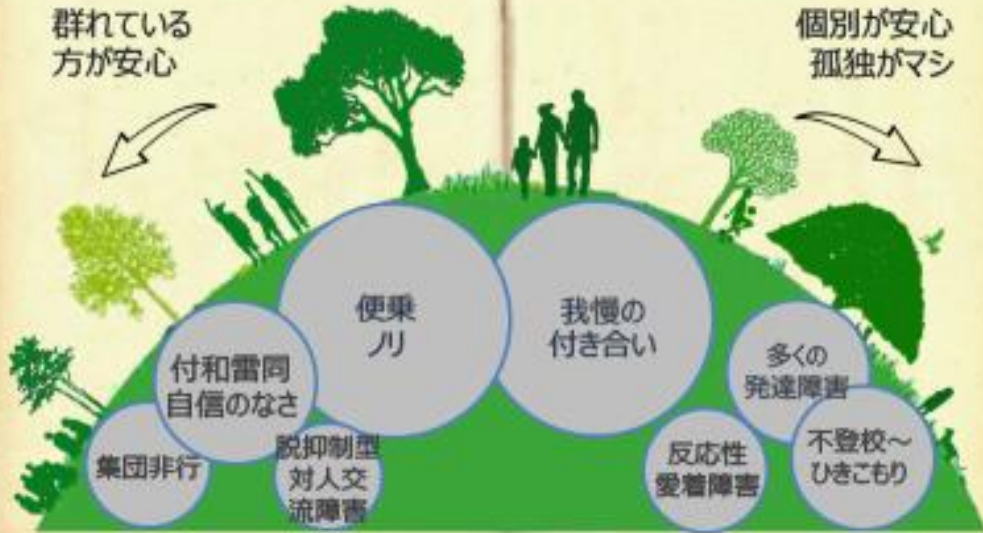
自分のポジションを知り、間が合う人と付き合う、それが自然な生き方だと思えます。

こんな幅があるのだから、両端がうまく付き合うなんて無理な話。

それぞれの間合い

群れている方が安心

個別が安心
孤独がマシ

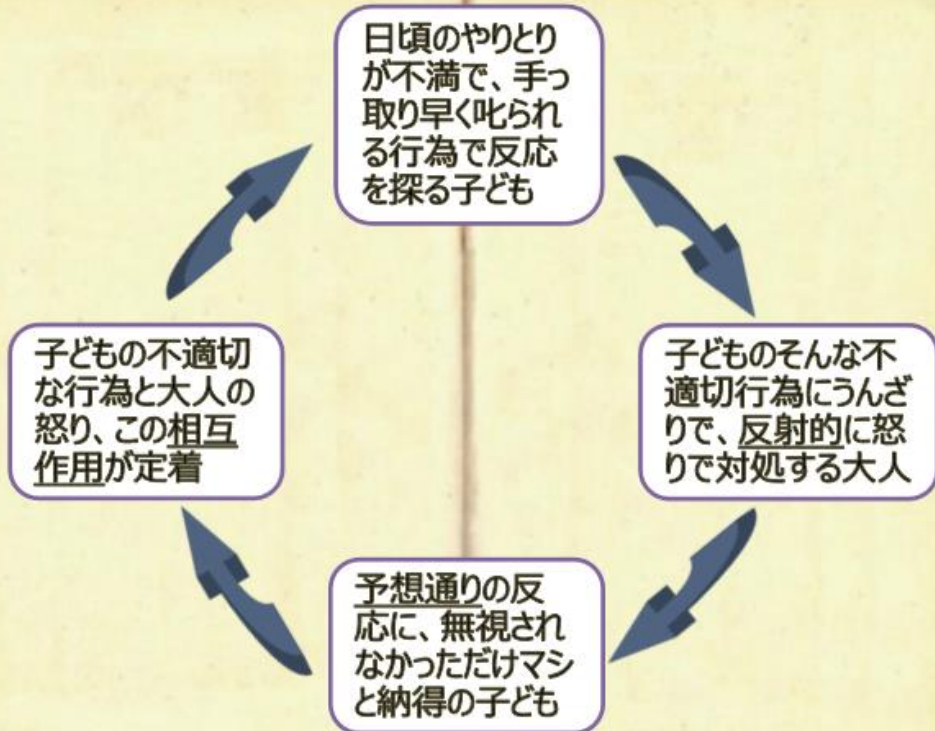


ビジュアル系
子ども・家族の
理解と支援

2. 問題が必要な家族

これではいけない、そう思いながら同じことを繰り返す家族は少なくありません。

変化を拒んでいるのは、「思わず反射的に」、「つい習慣的に」、「いつしか自動的に」というパターンです。



©Kato Buncho

この循環を延々と続けさせるエネルギーは、互いの怒り。

この循環を止めるには、エネルギー源を断つこと。怒りを誘う行為に、大人が“予想外”で応じます。

「やっぱり」から「えっ、どういうこと？」へ

子ども：手っ取り早く叱られる行為で反応を探るクセ



- 不適切な行為は見てやらない。見ないと怒りは生まれない
- マシ、違い、フツーを気をとめて反応する

Okada Shunichi